

# 常照

第849号

## ハンドサイン

野球の試合を観戦していると、監督やコーチが何やらせわしなく手を動かしているのを見かけます。選手にハンドサインを送っているのです。「次はバント!」「盗塁!」と大声で叫んだほうが早いのでしようが、そうすると相手チームに作戦が伝わってしまいます。だから、あらかじめ選手と取り決めたサインで伝達するので

しかし、簡単すぎるサインは相手チームに見破られてしまうので、味方にしかわからないルールを決めておきます。よく使われるのがブロックサインといって、キー(鍵)となる体の場所を決めて、キーのあとに触った場所を作戦とするサインです。他のチームにサインが盗まれないように毎年サインを変える必要があります。

プロでは試合ごとに、ときにはインニング(回)ごとにサインを変えると、ときには驚きです。私が選手なら頭が混乱してサインミスを手連発しそうです。とはいえ、サインの読み間違えや見逃しは重大なミスにつながるので選手も真剣にサインを受け取るのでしょうか。

お寺の本堂や家庭のお仏壇にい

らっしゃるアミダさまも、野球の監督やコーチのように私たちにハンドサインを送っていらっしゃいます。

浄土真宗のお木像や絵像に見るアミダさまは、両手の人差し指と親指で輪を作り、右手の指先は上に、左手の指先は下に向けていらっしゃいます。右手のメッセージは「われにまかせよ」、左手のメッセージは「必ず救う」です。このハンドサインの名前は「撰取不捨印（せつしゆふしやいん）」「私たち衆生（しゆじよう）を「撰め取って決して捨てない」というアミダさまのはたらきを表しているのです。

他の宗派のアミダさまをみると、輪を作る指が違ったり、両手

の高さが揃っていたりと、手の形も位置も様々です。どうやら、それぞれハンドサインによって発せられるメッセージも伝える相手も異なってくるようです。

一方、浄土真宗のアミダさまのハンドサインは判で押したようにいつも同じです。お寺の本堂とお仏壇で変わることはありません。相手によって変わることも、日替わりで変わることもありません。

なぜなら野球のサインのように誰かに盗まれる心配をしなくていいからです。加えて、アミダさまのサインは生きとし生けるすべてのいのちに向けられているからです。

アミダさまを信じ従うものだけでなく、アミダさまを疑い、背を

向ける人をも目当てとしています。それゆえ、アミダさまのハンドサインは全ての人に伝わるシンブルなものでなければなりません。「いつでも、どこでも、どんなあなたであっても、われにまかせよ、必ず救う」、これがアミダさまの一貫したメッセージなのです。



## 『日常は奇跡』

私の大好きなアニメ『日常』（原作あらゐけいいち）の第二十五話に出てくる言葉です。あらすじ

はこうです。

笹原先輩に片思いをしているみおちゃん。ある時みおちゃんは、あこがれの笹原先輩と立花先輩が腕を組んで歩いているところを目撃します。みおちゃんは二人がただならぬ関係だと誤解し落ち込みます。落ち込んでいるみおちゃんを心配する友達のうちこ、まい、なの。三人はどうにかしてみおちゃんを元気づけようと画策します。そして、三人はみおちゃんに特別賞と書かれた封筒を手渡しします。特別賞の封筒の中に入っていたのは三人からの「一生友達でいてあげる券」でした。

みおちゃんはかつて笹原先輩が言っていた「日々私たちが過ごしている日常は、実は、奇跡の連続

なのかもしれない』という言葉  
 思い出します。かけがえのない大  
 切なものをすでに手に入れていた  
 奇跡に気づいたみおちゃんは元氣  
 に歩きだすのです……。アニメ  
 『日常』屈指の名場面です。

私たちの日常は苦しみの連続で  
 す。思い通りにならないことたら  
 けの毎日です。そんな私に仏様は  
 慈悲という特別賞をくれました。  
 仏様は決して私のそばから離れ  
 ず、ずっと寄り添ってくださいま  
 す。慈悲という特別賞は仏様から  
 の「一生友達でいてあげる券」な  
 のです。仏様の慈悲と出逢った私  
 たちは奇跡のような日常を送って  
 いるのです。

十月の常例布教(ご法話)のご案内

《宗祖親鸞聖人報恩講》

○期 日 十月十三日(日)速夜  
 十六日(水)満日中まで

○日 程 晨 午前六時三十分  
 日 午前十時

速 夜 午後一時三十分

(速夜引き続き) 初夜

○報恩講布教 右記の法要に引き続き

大阪教区 島上西組 常見寺

講師 濱畑 僚一 師

○場 所 小樽別院本堂

◎なお、十月十四日より十七日まで報恩講修行に

伴い月忌参詣をお休みさせていただきます。

どうぞ報恩講にお参りください。

席の間隔を保ち換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号  
 本願寺小樽別院

電話 (〇三三) 二一〇七四四番  
 FAX (〇三三) 五九一四〇八〇番  
 テレホン法話 一七一六六一六番